

令和6年3月度NET句会

2点句

青空に勝るミモザの花明り

鳴戸まり子

主宰特選 稲畑廣太郎
一般入選 武藤星江

朝は無き流水閣に戻りをり 塚本武州

主宰特選 稲畑廣太郎

菜の花の黄のきらめきを摘む小道

椋麻里子

主宰特選 稲畑廣太郎
一般入選 渡辺真理子

卒業の子のまなざしの雲にあり

進藤剛至

主宰特選 稲畑廣太郎

海光へ黄を粒立てて花ミモザ

中村恵美

主宰特選 稲畑廣太郎
一般入選 武藤星江

蒼天の一条となり鶴帰る 塚本武州

主宰特選 稲畑廣太郎
一般特選 涌羅由美
一般入選 進藤剛至

昼霞山脈なぞる白の筆

山田翔太

主宰特選 稲畑廣太郎

ひとひらの光のことば初蝶来

涌羅由美

主宰特選 稲畑廣太郎

一般特選 葛原由起

一般入選 鳴戸まり子・塚本武州・進藤剛至

天上へ果てし百色石鹼玉

菅谷糸

主宰特選 稲畑廣太郎

一般入選 奥村里・中村恵美

一般入選

大人になっても、シャボン玉のあの色の展開には見惚れてしまいます。(中村恵美)

雨あがり風の継目に丁字の香

涌羅由美

主宰特選 稲畑廣太郎

一般入選 中村恵美

選外 花川和久

一般入選

風の継目という表現が素敵でした。

(中村恵美)

1点句

花の茶屋うどん御膳といふ宴

酒井湧水

主宰入選 稲畑廣太郎

一般入選 渡辺真理子

重さうに軽さうに揺れ花ミモザ

椋麻里子

主宰入選 稲畑廣太郎

一般特選 荒井桂子

一般入選 葛原由起

一般特選

今回は、素敵なおミモザの句がたくさんありましたが、一番共感したのがこの御句でした。(荒井桂子)

大掃除生徒自身のロッカーを 藏本翔

主宰入選 稲畑廣太郎

豪商の歴史知りたる雛かな 葛原由起

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 菅谷糸・杉森大介・松村史基

選外 花川和久

一般入選

薄暗く広い座敷に古き雛たち。

(松村史基)

初蝶の空より丘をすべり来る 菅谷糸

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 花川和久・武藤星江

一般入選

すべり来るという捉え方が、光のように空から降ってくるような、舞い降りてくるような、春の使者のような感を得ました。

(花川和久)

大橋を渡り行くバス陽炎へる 奥村里

主幸入選 稲畑廣太郎

一般特選 山田翔太

一般入選 葛原由起・杉森大介

春愁をラジオの音にかき混ぜて

進藤剛至

主幸入選 稲畑廣太郎
一般入選 酒井湧水

春の宵一期一会といふ宴 中村恵美

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 花川和久

一般入選

出会いの春。本音で語りあえる酌の席。

閉塞感のある冬から、人間の活動や交流がはじまる春、その賑わいと不思議な縁。春の宵のふくらみがなんと良い。

(花川和久)

流水や星の欠片を運びをり 塚本武州

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 松村史基

一般入選

これは、かなり上質なファンタジーだ。純度が高い。

(松村史基)

朧月灯りの洩るる養鶏場 杉森大介

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 荒井桂子

囀の一樹を保つ距離にをり 菅谷糸

主幸入選 稲畑廣太郎

春塵を纏ひ眠たげ讃岐富士 酒井湧水

主幸入選 稲畑廣太郎

ありがたう一言残し卒業す

渡辺真理子

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 塚本武州

選外 花川和久

あたたかや終の住処の定まりぬ

葛原由起

主幸入選 稲畑廣太郎

一般特選 武藤星江

選外 花川和久

パン生地が発酵進む春の昼 涌羅由美

主幸入選 稲畑廣太郎

一般特選 松村史基

一般入選 菅谷糸・渡辺真理子

一般特選

春はパン。昼の頃はさらなり。生き生きとした酵母。優れた感性和素直な表現が眩しいです。生命力に溢れた句。(松村史基)

おしやべりの止まらぬ大樹百千鳥

椋麻里子

主宰入選 稲畑廣太郎
一般特選 酒井湧水

初桜声なき声に誘はるる 花川和久

主宰入選 稲畑廣太郎
一般入選 奥村里

膝の上拳並びぬ卒業式 渡辺真理子

主宰入選 稲畑廣太郎
一般特選 奥村里
一般入選 花川和久・進藤剛至

一般特選

拳並びぬという表現

生徒一人一人の希望や決意があり、それを見守る作者の優しい瞳

卒業おめでとうございます。(奥村里)

一般入選

固い礼節とあまりマッチしない今の時代ですが、やはり卒業式というは厳かで、皆それぞれが深い感慨、将来への思いを描いて、この人生の一瞬の過渡期に臨んでいるさまが「拳」となっている様を感じられます。(花川和久)

浦島草わが道歩む立ち姿 武藤星江

主宰入選 稲畑廣太郎

黒板に言葉を残し卒業す 渡辺真理子

主宰入選 稲畑廣太郎
一般入選 荒井桂子

最果ての電話ボックス鳥帰る

松村史基

主宰入選 稲畑廣太郎
一般入選 奥村里
選外 花川和久

又ふはりパラグライダー島の春

葛原由起

主宰入選 稲畑廣太郎
一般入選 荒井桂子・塚本武州

古本屋店主のはたき春埃 中村恵美

主宰入選 稲畑廣太郎
選外 花川和久

寄せ書きのページ卒業アルバムに

渡辺真理子

主宰入選 稲畑廣太郎
一般入選 中村恵美

一般入選

思いがけない友達のメッセージに泣いたり笑ったりした事も…(中村恵美)

句碑の辺のゆたかに光る春の水

椋麻里子

主宰入選 稲畑廣太郎

春眠の魔法にかかる五時間目

涌羅由美

主宰入選 稲畑廣太郎
一般入選 武藤星江

枝垂れては光操る川柳 武藤星江

主宰入選 稲畑廣太郎

自転車の円周率や春日影 山田翔太

主宰入選 稲畑廣太郎

玉砂利の隙間より生るたんぽぽ黄

鳴戸まり子

主宰入選 稲畑廣太郎

春塵やレジャーシートをめくる風

山田翔太

主宰入選 稲畑廣太郎
一般入選 渡辺真理子

路地裏を曲がり春風垂れてあり

進藤剛至

主幸入選 稲畑廣太郎

落書きの残る句帳や山笑ふ 椋麻里子

主幸入選 稲畑廣太郎
選外 花川和久

立つたまま居眠りできて卒業す

塚本武州

主幸入選 稲畑廣太郎
一般入選 松村史基・酒井湧水

一般入選

それぞれの個性が卒業を迎え、感慨もひと
しお。
(松村史基)

オリーブの島の埠頭につばくらめ

酒井湧水

主幸入選 稲畑廣太郎

花菜畑少女の昼をけぶらしぬ 菅谷糸

主幸入選 稲畑廣太郎
一般入選 葛原由起

生徒への伝言のメモ大掃除 藏本翔

主幸入選 稲畑廣太郎

卒業へ雨のやさしくなつてゆく

松村史基

主幸入選 稲畑廣太郎
一般特選 進藤剛至
一般入選 山田翔太

一般特選

天空の祝福のようで、雨に光を覚えること
ができました。「へ」「の」「ゆく」と、やわらか
い助詞と補助動詞を用い、その韻と意味が渾
然一体となつて迫ってきます。(進藤剛至)

鳥帰り海岸線へ弧を残す 松村史基

主幸入選 稲畑廣太郎

真昼日を枝葉にあづけ咲く椿

荒井桂子

主幸入選 稲畑廣太郎

朝には二分咲き夕は花の塵 酒井湧水

主幸入選 稲畑廣太郎
一般特選 塚本武州
選外 花川和久

一般特選

桜の花は開花したらすぐに満開になり、す
ぐに散る。桜の生き急ぐ姿を描写した名句。
(塚本武州)

ふんだんに奔放に生け花ミモザ

中村恵美

主幸入選 稲畑廣太郎

春雷の残してゆきしガラス窓

松村史基

主幸入選 稲畑廣太郎

残る鴨池の日向を知り尽くし

荒井桂子

主幸入選 稲畑廣太郎
一般入選 菅谷糸・鳴戸まり子・涌羅由美

聞こえくる先祖の言葉涅槃西風

奥村里

主幸入選 稲畑廣太郎

手元より暮れてゆきたる遅日かな

松村史基

主幸入選 稲畑廣太郎
一般入選 進藤剛至

潔く切られし薔薇の芽の未来

荒井桂子

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 涌羅由美

瀬戸内の島を眼下に山笑ふ 奥村里

主幸入選 稲畑廣太郎

担任の最後の仕事大掃除 藏本翔

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 武藤星江

異動して見知らぬ街の春の空

鳴戸まり子

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 山田翔太・杉森大介

一天を照らす勢ひいぬふぐり 菅谷糸

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 中村恵美

一般入選

春の大地に星の瞬きの様に群れ咲く可愛
い犬ふぐり (中村恵美)

師を仰ぐこゝろや花を仰ぎつゝ

進藤剛至

主幸入選 稲畑廣太郎
一般入選 松村史基

一般入選

師は花のような人。(松村史基)

水温む旧吉野川河口堰 奥村里

主幸入選 稲畑廣太郎

春潮や地球の色を醸す青 花川和久

主幸入選 稲畑廣太郎

木漏れ日に神の声聞く伊勢参 塚本武州

主幸入選 稲畑廣太郎

一般特選 杉森大介・鳴戸まり子

在りし日の家族写真のチューリップ 山田翔太

主幸入選 稲畑廣太郎

一般入選 鳴戸まり子

横丁へなだる人並伊勢参 花川和久

主幸入選 稲畑廣太郎

0点句

パーキングチケットさらふ風ぬくし 葛原由起

一般入選 荒井桂子・酒井湧水・渡辺真理子

黒オーラ纏ふと相撲勝つ力士 杉森大介

呪文秘めお水送りの水そそぐ 花川和久

放流の歲月満ちて鯉群来 武藤星江

一般特選 菅谷糸

一般特選

「歲月満ちて」に、鯉の歲月も人の歲月も
想像させて、しみじみとした余韻を感じま
す。(菅谷糸)

生徒等へ声かけて終ゆ大掃除 藏本翔

春光を細かく砕く波頭 涌羅由美

一般入選 鳴戸まり子・奥村里
選外 花川和久

ごみあさる鳥の羽に春の艶 酒井湧水

一般特選 花川和久

一般特選

とても戴けないありさまの中の、その一瞬に捉えた季の感慨、光景の不思議さを連想。どのような状況の中にも季の力や明るさを引き出す極楽の文学を感じました。

(花川和久)

五線紙のおたまじゃくしも春うらら

武藤星江

退場に拍手の続く卒業式 渡辺真理子

一般入選 山田翔太・菅谷糸

年しらず名しらず花をあふぎ合ふ

進藤剛至

春塵や教師机の積みし本 藏本翔

一般入選 杉森大介

道頓堀虎の行き交ふ水の春 山田翔太

花ほつれ鳥語のほつる日差し中

杉森大介

一般入選 塚本武州

暖かや時の一線陽の力 花川和久

菜の花の水平線や蒼き穹 杉森大介

麗らかや歳時記めくるサンルーム

鳴戸まり子

一般入選 葛原由起

花なづな蹄の音の掠めけり 荒井桂子

一般入選 涌羅由美

あたたかし弱さ話してくれし友

葛原由起

一般入選 花川和久

一般入選

親しそうな中でも、人はそれぞれプライドや強がりやで武装するものでしょうか。弱さを見せる強さ、そこに本音でぶつかってくれる親しみ、それがあたたかさとして、希

望の春にともに歩んでいくさまを実感しました。(花川和久)

さわらびのやがてののじとなるこぶし 武藤星江

一般特選 中村恵美

選外 花川和久

一般特選

萌え出たばかりの蕨の景が春の先駆けといった感じでお上手だと思いました。(中村恵美)

鶴帰る師の俤の残る空 奥村里

海までは一本道や花ミモザ

鳴戸まり子

一般入選 山田翔太・武藤星江

春塵を置かぬ形見の硯箱 中村恵美

一般入選 酒井湧水・涌羅由美

耕しに鳥の集まる日差し中 杉森大介

田の神へ踊り歌へや春祭 荒井桂子